

脳外科単科病院での 特定ケア看護師の役割

脳神経外科東横浜病院 滝澤江里子

はじめに

はじめまして、今月担当させていただく、脳神経外科東横浜病院所属 NDC 7期生 滝澤江里子と申します。

脳神経外科東横浜病院は、年間の救急受入患者数は3,000人、手術件数は300件を超えている急性期を中心とした、地域医療へ貢献を目標としている脳外科単科の病院です。2023年3月に特定行為の臨床研修を終了し、現在は特定ストロークナースという名称で、内科的管理(主に電解質やインスリン、利尿薬、降圧薬調整)、急変対応や血管内や開頭手術の助手、救急の初期治療、初診外来の身体診察の業務をさせていただいています。当院では初めての特定看護師であり、手術件数が多い当院では、多忙な医師と看護師、パラメディカルの橋渡しができる役割をしたいと思い、日々尽力しております。

特定ケア看護師を目指したのは

私がNDCを目指した理由は、私の看護師としての目標でもある、「患者、家族の一番の味方になる」というものに一歩近づけるのではないかと思ったからです。

なぜ、この目標にしているかというところからお話しさせていただきます。私がそもそも看護師を目指したのは、循環器専門病院で看護助手と病棟クラークの兼務をしていた際に、長期入院していた患者さんと病室でいつも通りにお話をさせていただいていた時、突然反応がなく



回診中

なってしまう、ナースコールを押すことしかできませんでした。すぐに看護師や医師が来てくださり、私は病室から出ることとなり、現状のみこめないまま病室の前に立ち尽くしていました。ご家族が来院されましたが、ご家族になんて言葉をかけていいのかわからず、また現状も理解できていなかったもので、一緒に処置が終わるのを待つことしかできませんでした。その後看護師からご家族と一緒に入室するよう言われました。

患者さんは亡くなってしまいましたが、とても穏やかな顔でした。

後日ご家族から、一通の手紙を受け取りました。そこには、『一緒に悲しんだり、喜んだりしてくれてありがとう。一番の味方になってくれてありがとう』などと、書かれていました。そして、病室の前で立ちすくんでいた私の姿を見ていた看護師から勧められ、看護師の道に進みました。

看護師になり、待っていた現実は…

看護の世界に入り、待っていたのは、日々多忙で業務をこなすことで必死な毎日でした。ある程度経験も積んだ頃には、後輩指導などもあり必死に業務を行っていました。

ある時、救急搬送された患者に違和感をおぼえましたが、数日後に病状悪化された際、医師が来るまで何もできず、『あの時の違和感をちゃんとアセスメントしていたら』と後悔して、患者さんやご家族に対して寄り添えていないことに気づきました。そこから初心を忘れていたことに気づき、患者さんや家族に寄り添うことのできる看護師を目指して日々業務をしてきました。しかし、患者さんに寄り添おうと思うほど、患者さんの全身状態をアセスメントする際に躓くようになってしまいました。

また、救急や病棟での多忙な医師を待つ間の不安を少しでも減らしたいという気持ちで『診る』と『看る』ができる特定ケア看護師の道に進みました。

特定ケア看護師として、脳外科単科での役割は…

1年前は、JADECOR NDC研修センター(藤谷塾)での課題に追われ、実習や研修はとても大変でしたが、自施設や家族、メンターさん方、NDCの先輩方、内藤貴基先生、指導医の先生方、何より7期生のみんなに助けられ、何とか卒業することができました。7期生の同期とは、今でも連絡を取り合い、実習や研修の思い出話、困っている事などを相談したりしています。

臨床研修では、初めての特定看護師であるため、まずは業務を知ってもらうように全体ミーティングでプレゼンテーションを行い、日常業務でも積極的に介入し各部署との関わりを持つようにしました。

この一年間の臨床研修で、たくさんの壁に当たってきましたが、一つ一つ壁を乗り越えてい

くことで、指導医から求められるレベルも上がりますが、壁にぶつかるたびに初心を思い出しています。

私が思う脳外科単科病院での特定ケア看護師の役割は、救



常時携帯品

急車台数や手術件数が多い当院では、医師や看護師は一人に対して寄り添える時間が持ちたくても限られています。そのため、医師と看護師の代わりにモニターを頻回にチェック、身体診察や検査、傾聴など丁寧に一人に対してかけ、急変予測や病状の悪化などを未然に防ぐことが役割なのではないかと考えます。その先に医師とパラメディカルとの患者情報の連携などができるのではないかと思います。今では、急変対応や救急の初期診療、外来初診患者の問診、内科的な介入、手術助手、指示簿の代行人力、診療情報提供書の作成代行などの業務を行っており、医師とパラメディカルの橋渡しには、まだまだ遠いですが、『いてくれてよかった』『不安が解消された』、『患者対応がスムーズになった』などのお声をいただけるので、一歩近づけているのではないかと考えて日々頑張っております。

これからも『患者に寄り添い、一番の味方になれる看護師』を目指して一歩ずつ成長していきたいと思います。



時々7期生のみんなと息抜き会